

文学部 生活科学部 看護学部 経営学部 小論文

(解答はすべて解答用紙に記入すること)

次の文章は、今北純一氏の「自分の道はこうして見つける」と題する随想です。この文章を読み、あとの設問に答えなさい。

既成概念を取り払い、なにこともまず疑ってみよう

一六世紀前半にコペルニクスが唱えた地動説は、聖書の天地創造説話に基づく天動説をとっていた教会や思想界に大きな衝撃を与えました。

地動説を数理的に立証して現在の太陽系構造を確立するには、一七世紀のケプラーやニュートンの登場を待たなければなりませんでしたが、コペルニクスの地動説は、それまで人類が長く信じ込んでいた宇宙観や世界観に、大転換をもたらしたのです。

この「天動説と地動説」のように、二つの概念が対立や矛盾の関係にあることを、「二項対立」といいます。「精神と肉体」「主観と客観」なども二項対立です。

二項対立は、ものごとを単純化してとらえるには便利なやり方です。また、「天動説と地動説」のようにスケールが大きな対立では、どちらが正しいか、という問題を超越して、それぞれの陣営からものすごく大きな知的エネルギーが投入されて、歴史に残る成果が生まれます。

みなさんの周囲を見回すと、「理系と文系」「草食系と肉食系」「勝ち組と負け組」のような二項対立がたくさんあるでしょう。でも、今の社会でもてはやされている二項対立は、単なる言葉遊びからくる安直な分類に過ぎません。そこからは、「天動説と地動説」が歴史に残したような大変革や新しい価値は、何も生まれません。

ものごとを単純に二分して論じるやり方は、一見わかりやすそうですが、「わかりやすい」と思われるものには、たいていはウソやごまかしがひそんでいるから気を付けてください。

たとえば、「勝ち組」と「負け組」を決める基準は、いったいなんなのでしょう。一流大学から一流企業へ入った人が「勝ち組」だというのなら、その「一流」を決める基準とはなんなのか？ 年収で勝ち負けが決まるというのなら、いくら以上が「勝ち」なのか？ 「勝ち」は永久に続くのか？

大企業に入っても仕事にやりがいを見出せない人がいる一方で、中小企業の中で誇りを持って生き生きと仕事をしている人がいる。年収が少なくても楽しく暮らしている人がいる一方で、何億もの所得があっても不満な人がいる。結局、自分の幸福は他人との比較ではなく、自分自身の判断で決まるものなのです。

こう考えていくと、誰かが決めた「勝ち負け」に一喜一憂することが、いかにバカバカしいことかに気付くはずですよ。

安直な二項対立がまかり通っているのは、メディアにも責任の一端があると思います。大衆迎合型のメディアの無責任さは先進国に共通するものですが、特に日本の状況はひどい。本当に大事な話は抜け落ち、三面記事的なニュースや面白おかしく視聴率が取れるような話ばかりがまき散らされています。

ですから、新聞記事やテレビのニュースを見る時には、まず疑ってかかるようにしましょう。報道内容をうのみにせず、できる範囲でいいから自分で情報を集め、わからないことは調べて、あくまでも自分の頭で分析するクセをつけるようにするのです。そうしないと、その時その時の流行に振り回されて、ものごとの本質を見逃してしまいます。

ニュースに限らずなにごとに対しても、「本当かな？」「それはおかしいんじゃないかな」と、疑ってみることが大事です。固定観念や既成概念を取り払ってものごとを観察し、自分の頭で解釈し、知恵に変換していくことこそが、本当の知性なのです。

(今北純一著 『自分力を高める』より)

設問一 筆者は、「自分の道」をどのようにして見つけると述べていますか。筆者の主張が端的に述べられている部分を45文字以内で抜き書きしなさい。

設問二 あなたが茨城キリスト教大学各学部各学科で学ぶうえで大切にしたいことについて、設問一の内容を踏まえて、具体的に800字以内で述べなさい。